

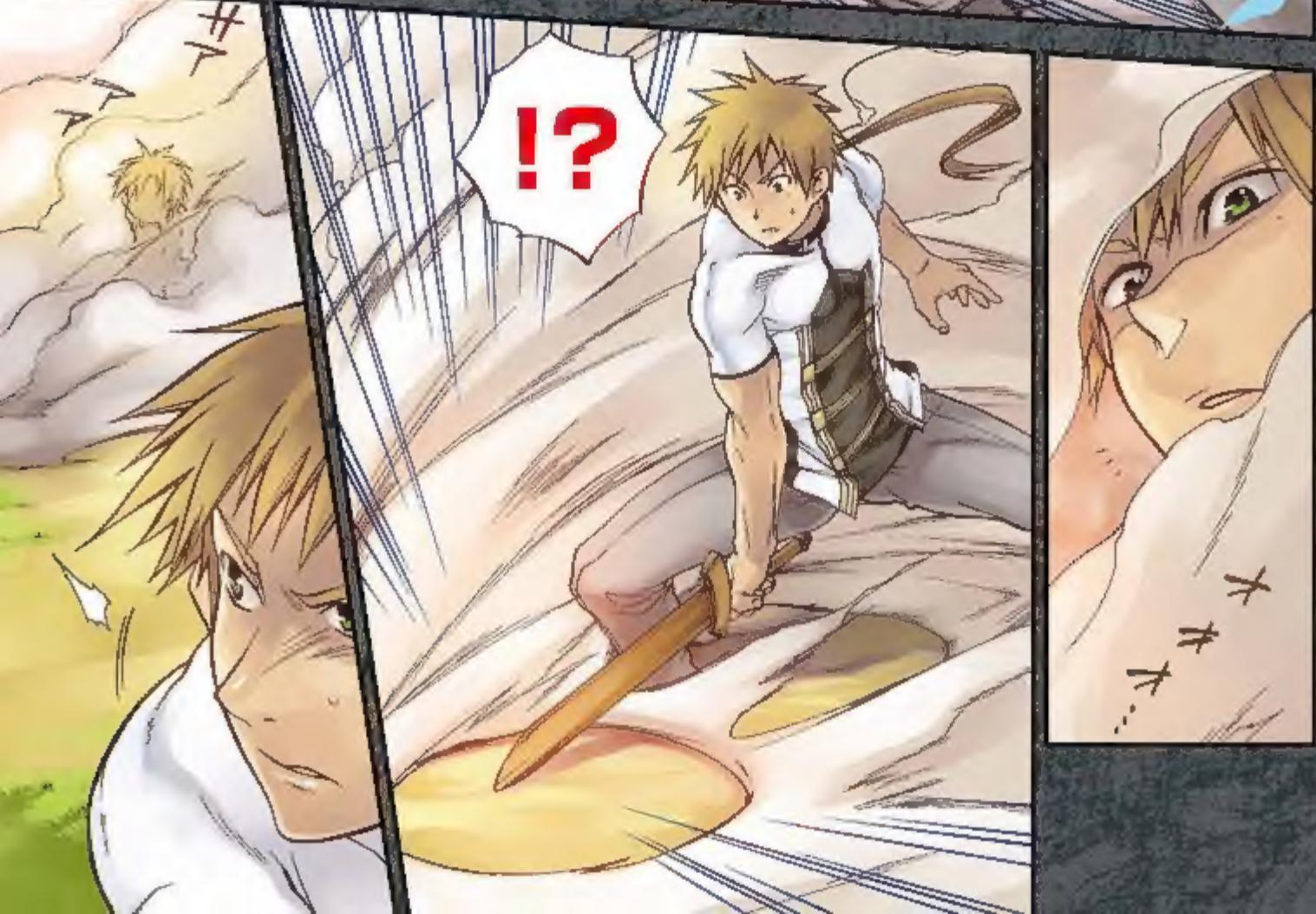
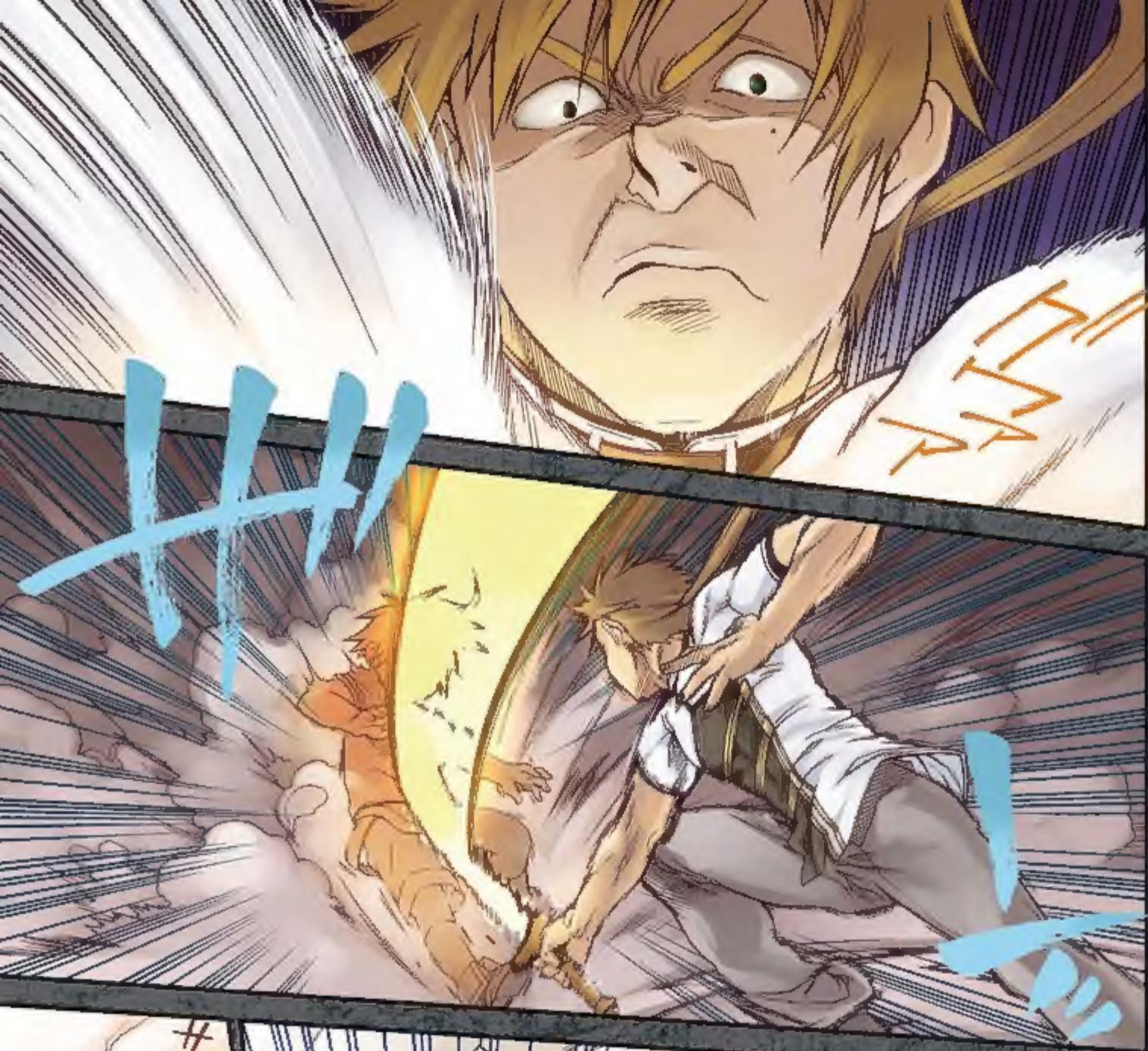
フジカワユカ  
原作...理不尽な孫の手  
キャラクター原案...シロタカ

2

# 無限戦士

異世界行ったら  
本気だす





第6話 †離別  
第7話 †お嬢様の暴力  
第8話 †油断  
第9話 †ボレアス流挨拶  
第10話 †エリスの憂鬱  
書きおろしSS †狂犬王、飼い犬となる  
side story †グレイラット家のメイドさん

001  
041  
071  
091  
123  
150  
159

444

第6話

離別



無職転生

異世界行ったら  
本気だす

②

フジカワ ユカ  
FUJIKAWA YUKA

原作:理不尽な孫の手  
キャラクター原案:シロタカ



あああ怖かつた  
マジ怖かつた  
死ぬかと思った  
ちびるかと思った

なになにななんなの!?

俺がちょっとワガママ  
言つちやつたから

怒つてゐるのねえパパン!?

思いだせ!  
あのときをきっかけに  
何度もシミュレート  
してきた  
対パウロ戦を!

なんだが知らんが  
パウロはやる気だ  
応戦しなきや  
やられる:









おいおいマジで  
大丈夫なのかよ…

父様…









父様...

ぐ



正面  
ムチャクチャ  
カッコよかつた

あのときの  
パウロは



俺の  
本気で

アンタに勝つ!!!

...まづ



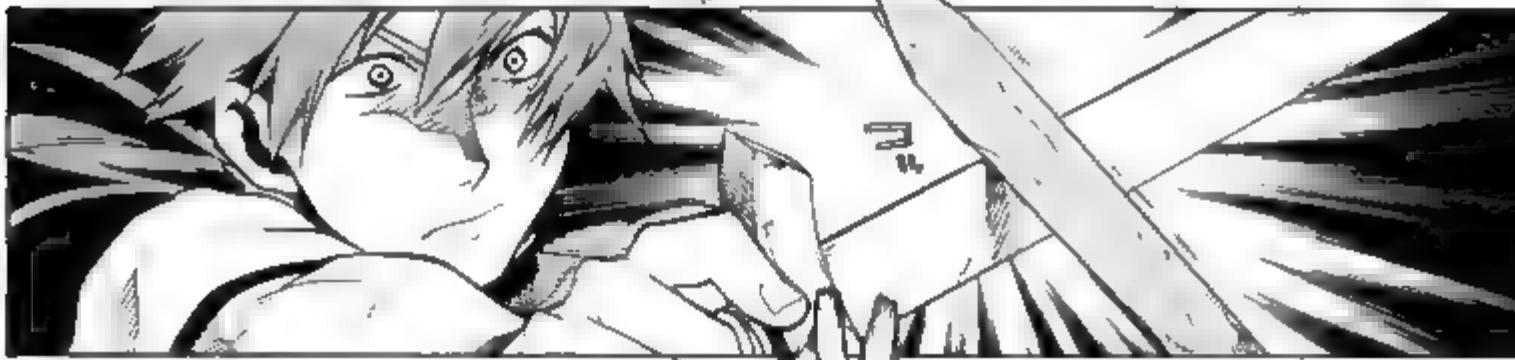
!?









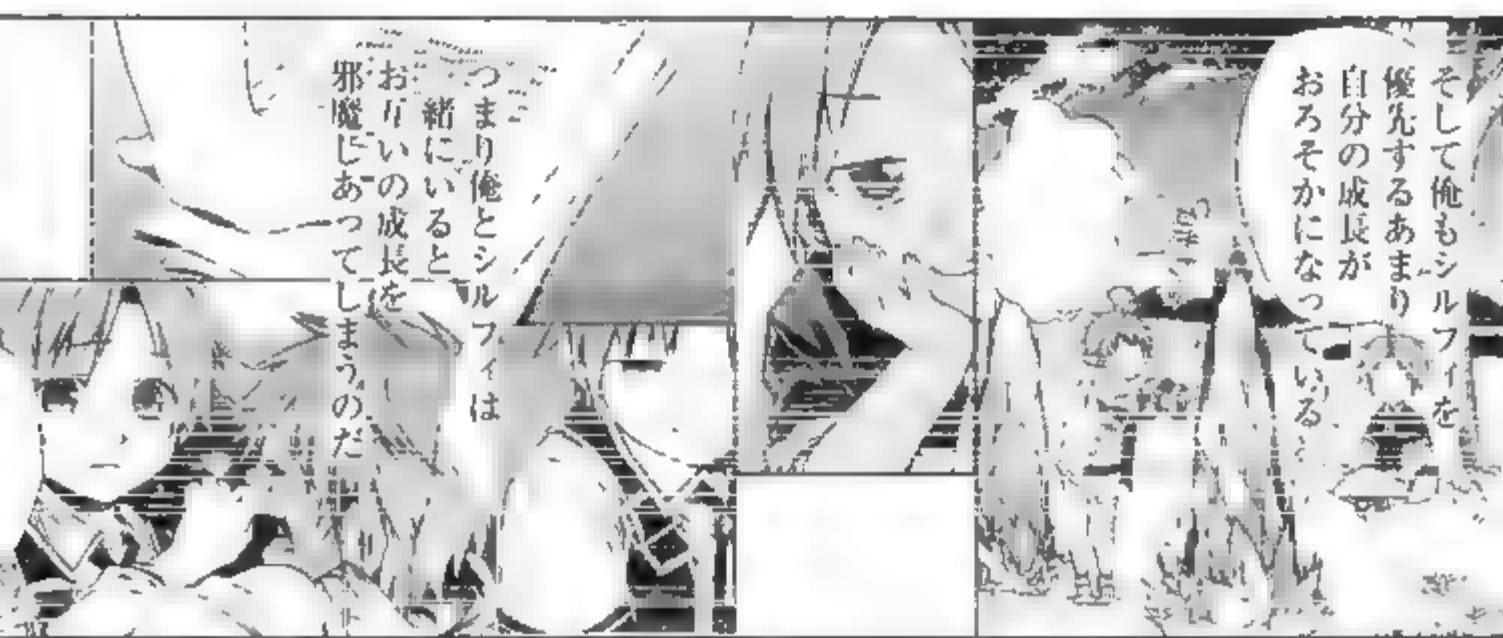




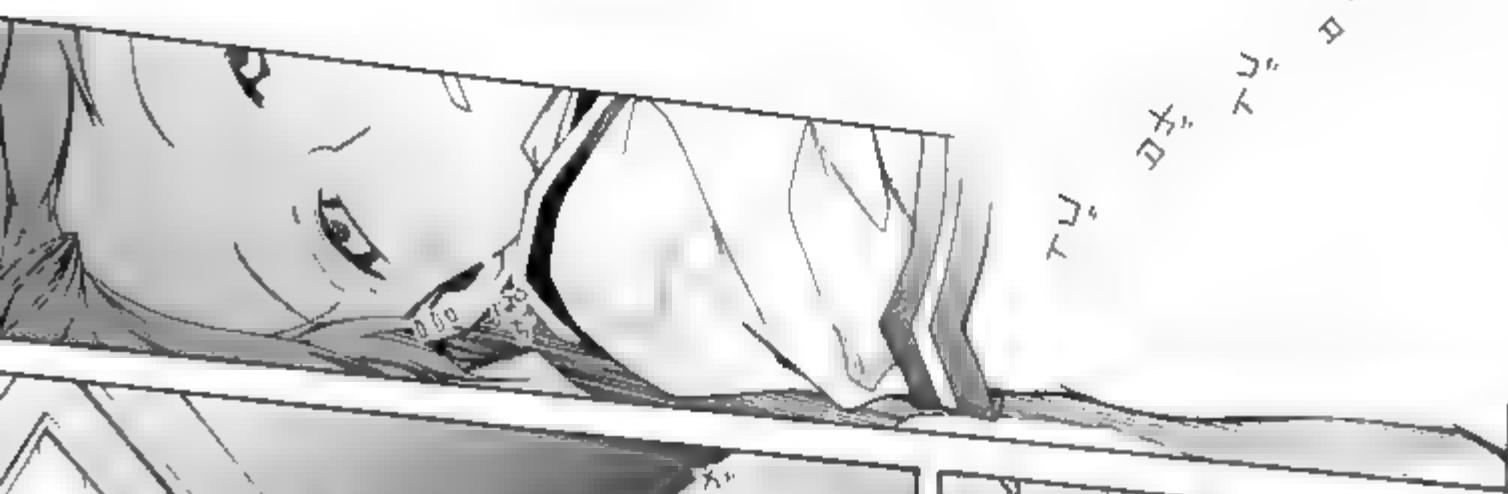














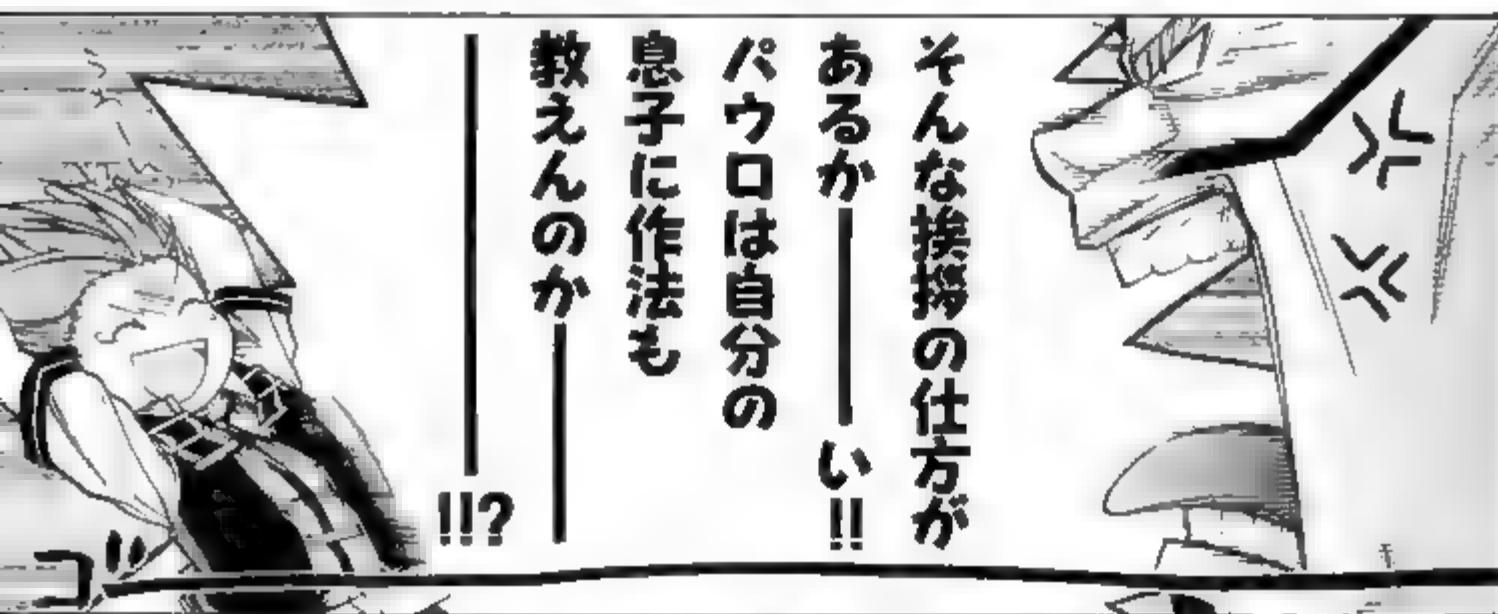


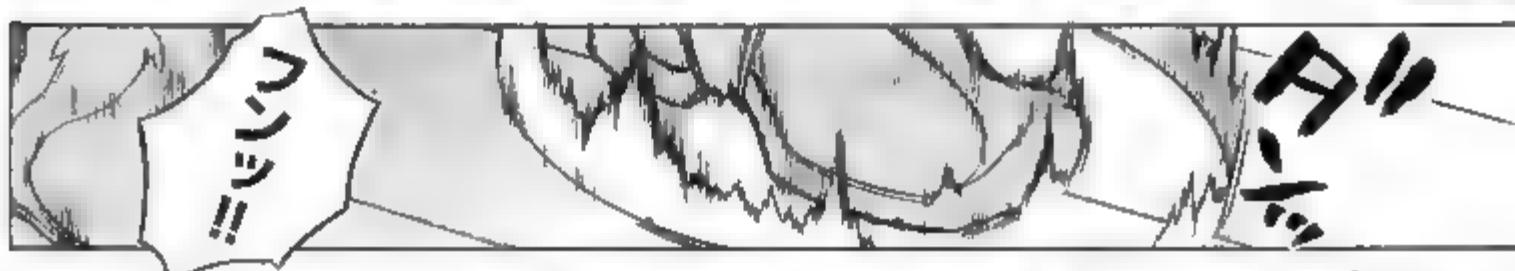


# 城塞都市ロア



# 貴様は 黙つておれ!!!





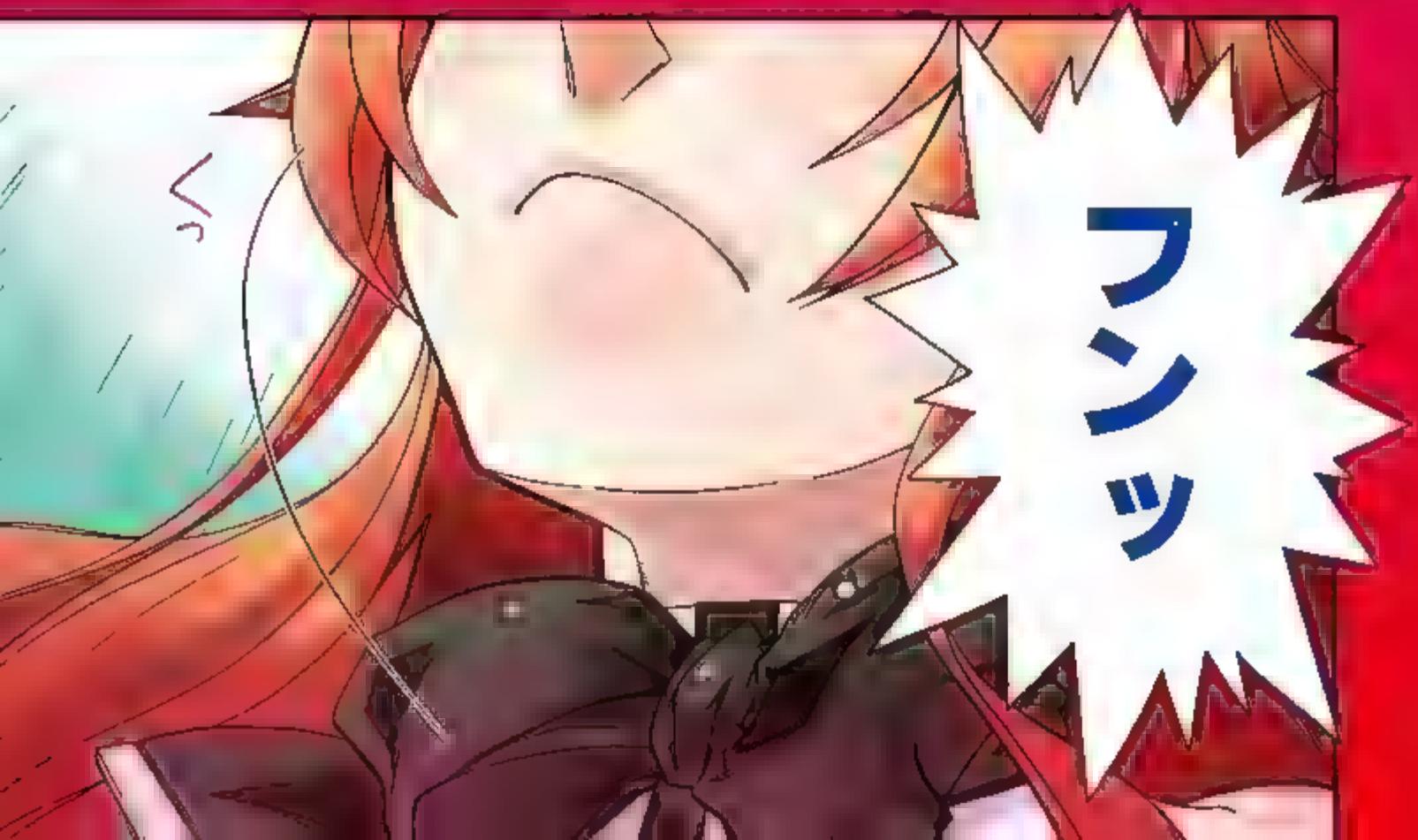
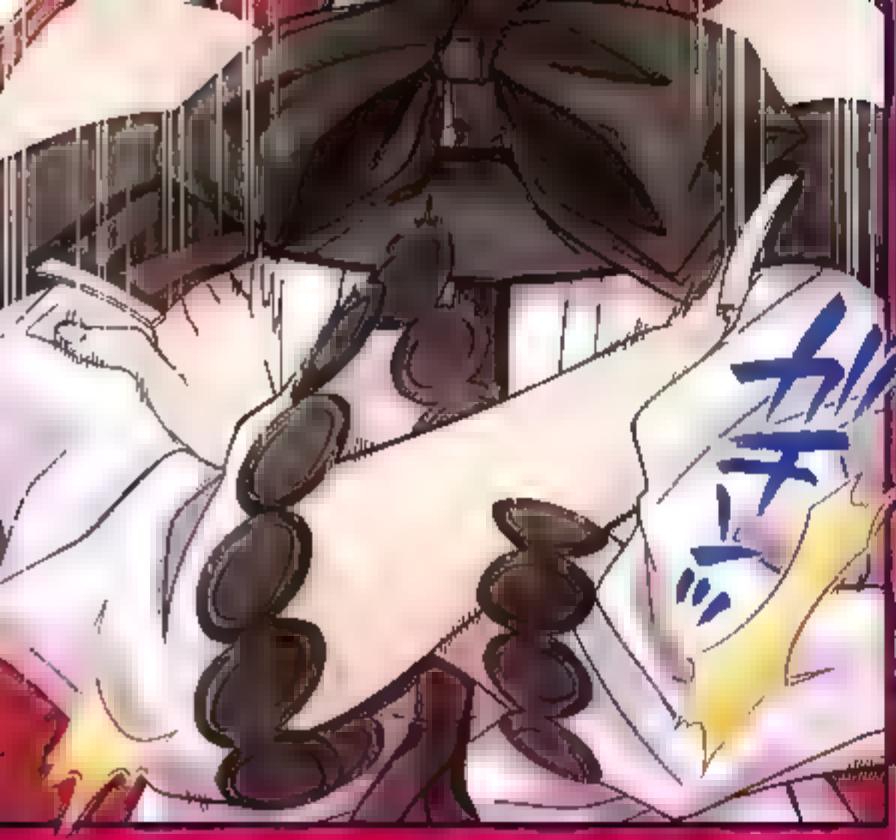






なあに  
お嬢様なんか  
俺のモテテクで  
「ロゴロ  
ニヤンコ」だ・



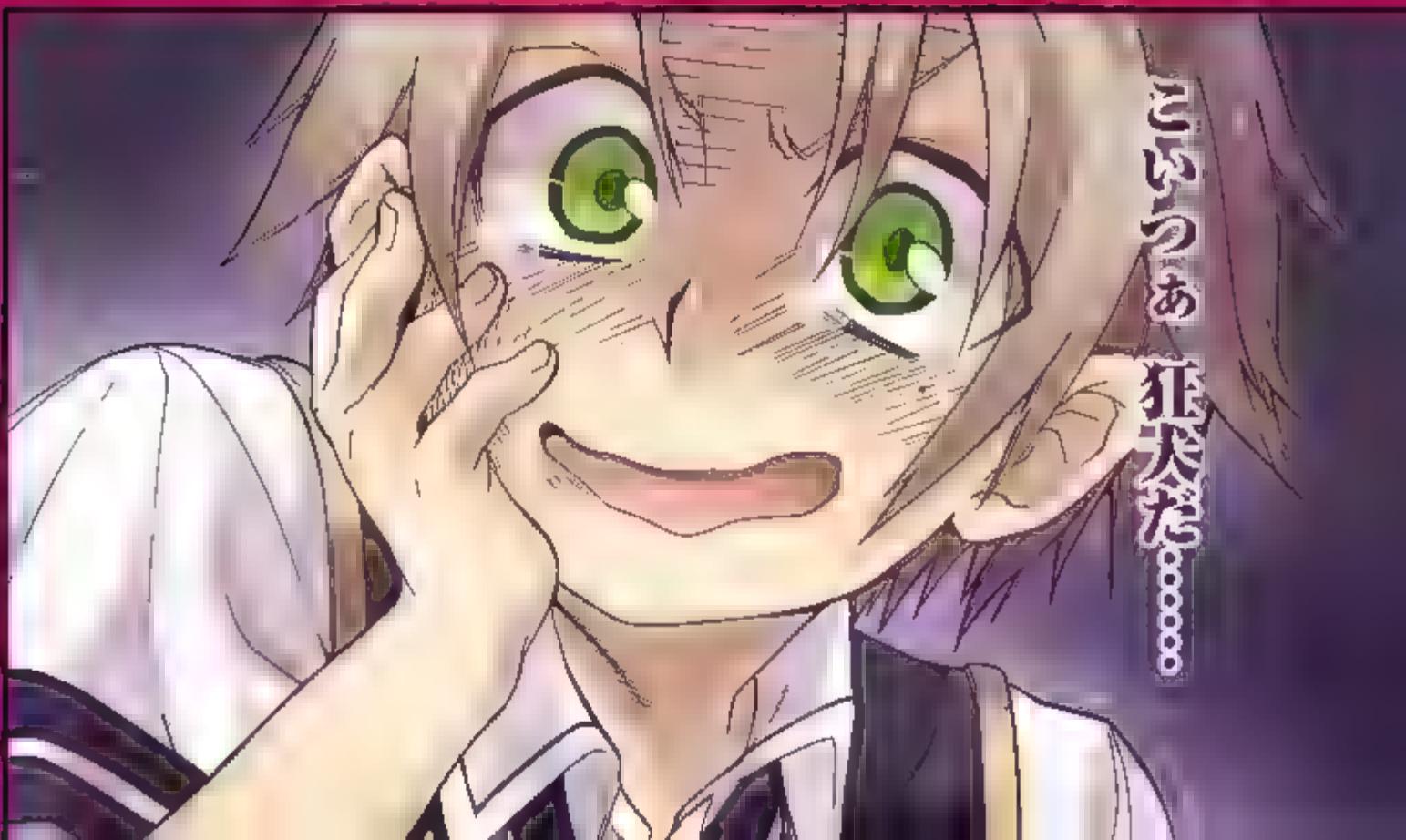


フンッ

なによ!! 私より  
年下じゃないの!!

こんなのに  
教わるなんて  
冗談じやないわ





第7話

お嬢様の暴力





ええええ  
ちょつと  
なんなの



それが  
お嬢様のする  
目つきかよ

てかいきなり  
ブン殴るとか  
あるう!?



なんでいきなり  
殴るんですか?

これが少々つて  
レベルですか  
フイリップおいたん…

娘は少々  
問題児でね…

# 年下のクセに

私の先生

だなんて

生意気

だからよ!!!

は?

ミツたく  
しようが  
ないな…

おまけに声も  
バカデカイ!!

じーさん似か  
このお嬢様は…

僕も殴り  
かえしますね

お嬢様は人に  
殴られる  
痛みというものが  
おわかりになつて  
おられないようで

ハハハハ。



純い名したな…





きやああああああああ!?

むわっちらなさい!!!  
もう許さないわー!!!

つたく冗談  
じゃねー

あれは  
狂犬!!

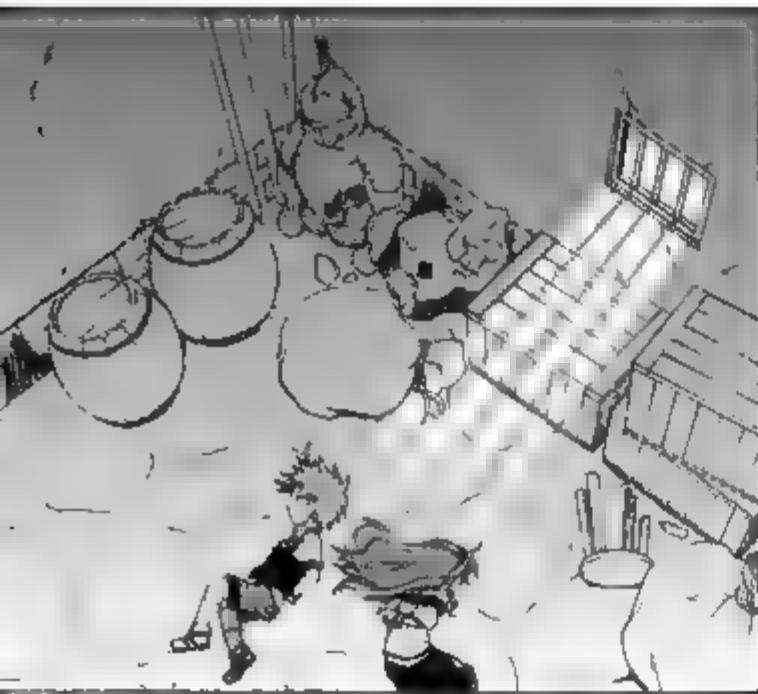
通知なん  
うつんなん  
そでるお嬢様と

ど!行つた  
!?

野性に目覚めた  
狂犬そのものじゃ  
ないかー!!!













お嬢様  
役とはいえ  
仮にも誘拐犯に  
向かってそんな  
暴言を

私を誰だと  
思っているの?!

あんたなんか  
ギレースが  
真っ二つに  
するわよ

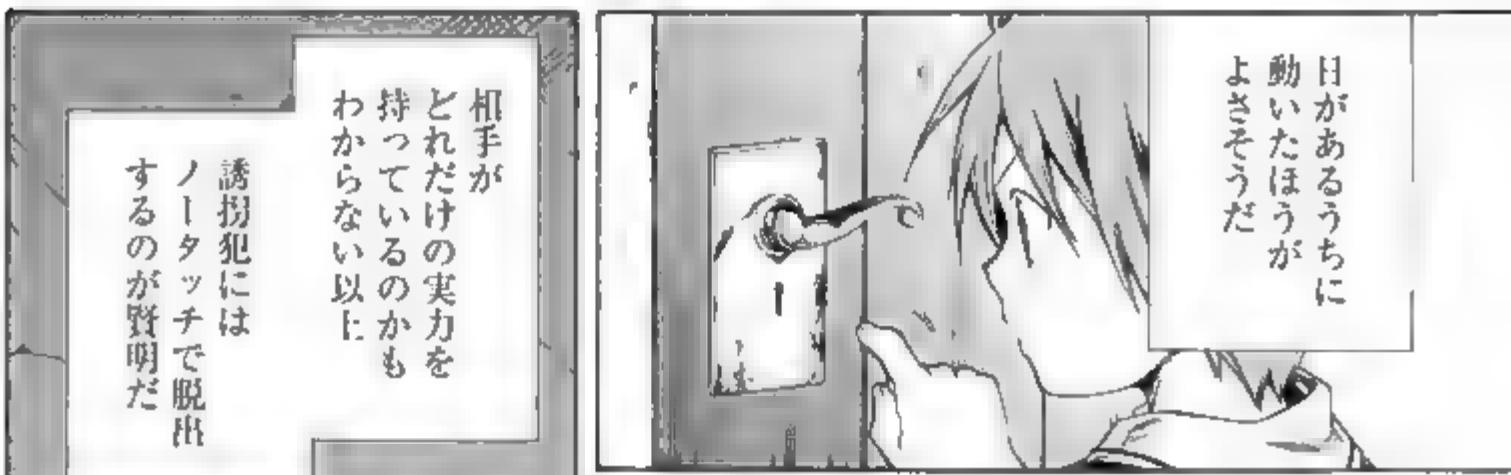
ギレース!!  
助けてギレ!!











もし万が一  
誘拐犯に勝てたとじても  
お嬢様にすべて暴力で  
解決できると思われても  
よくない

もつと無力感を

与えなければ

お嬢様

どうやら領主様に  
よからぬ感情を抱く  
ならず者に誘拐された  
ようです

今夜には仲間が来て  
僕らをなぶり殺しにすると  
相談しています

ビクッ

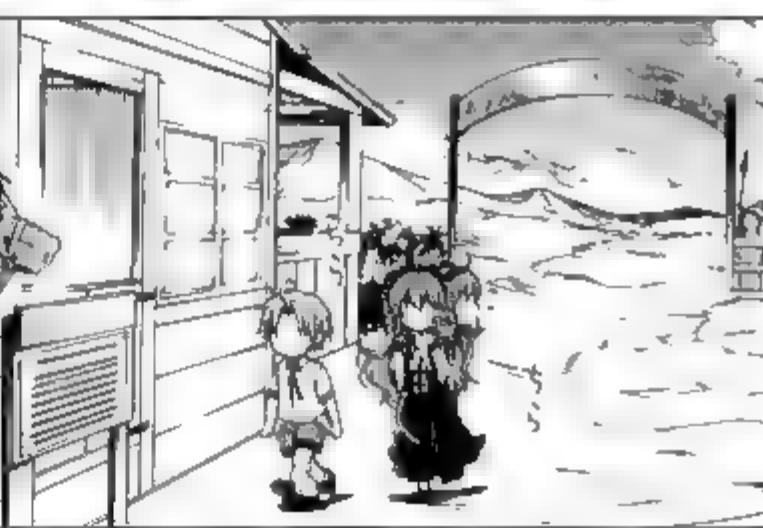
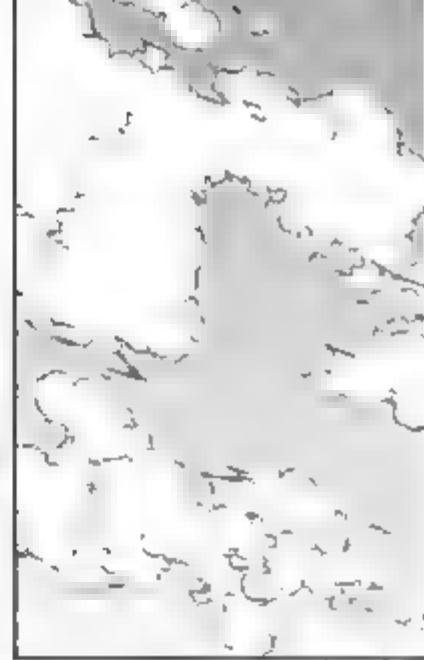
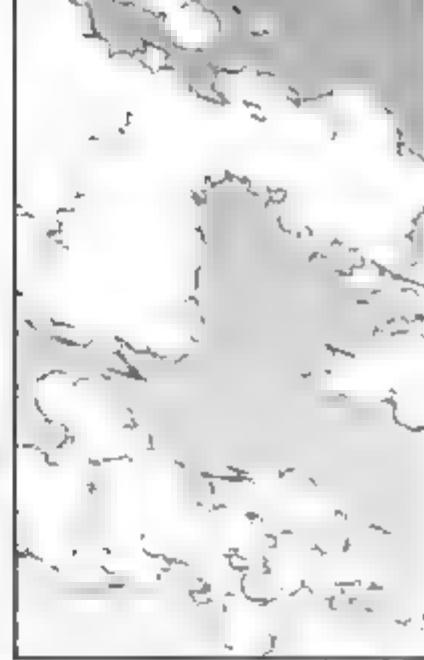






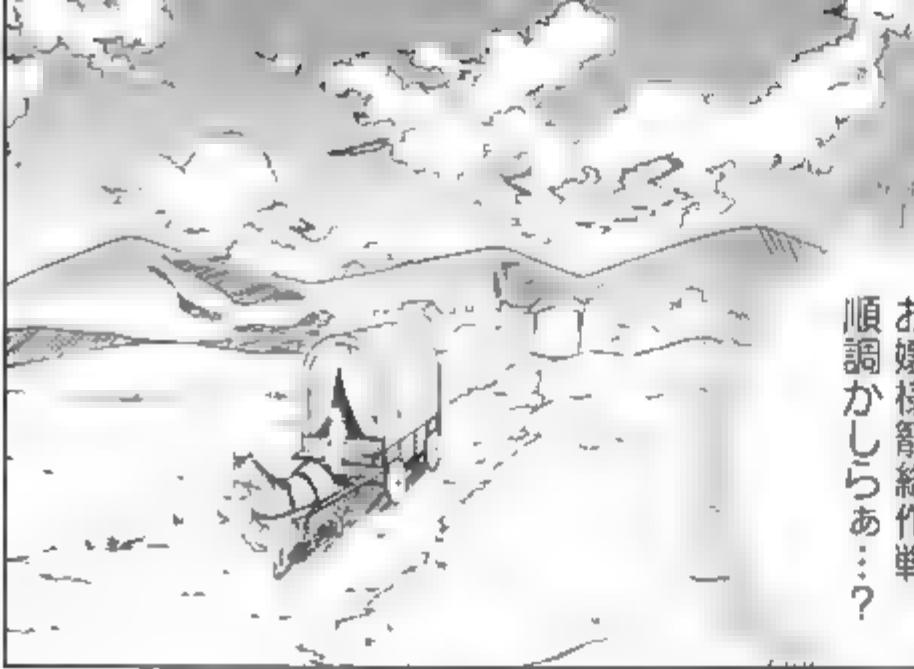






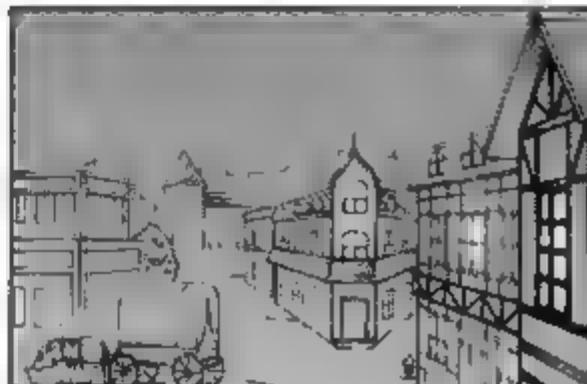


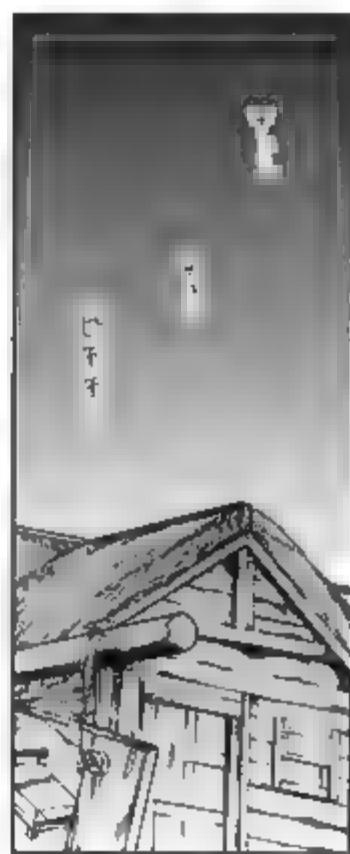
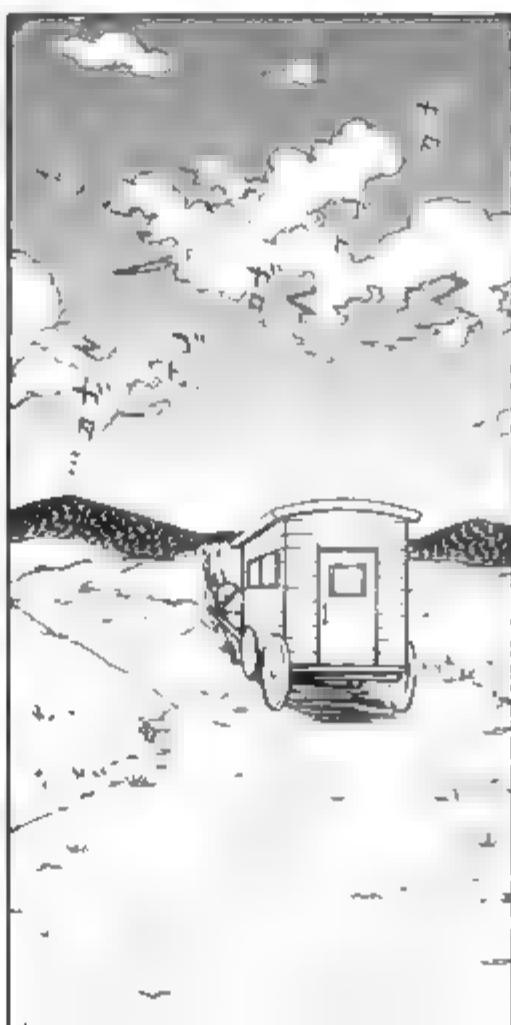


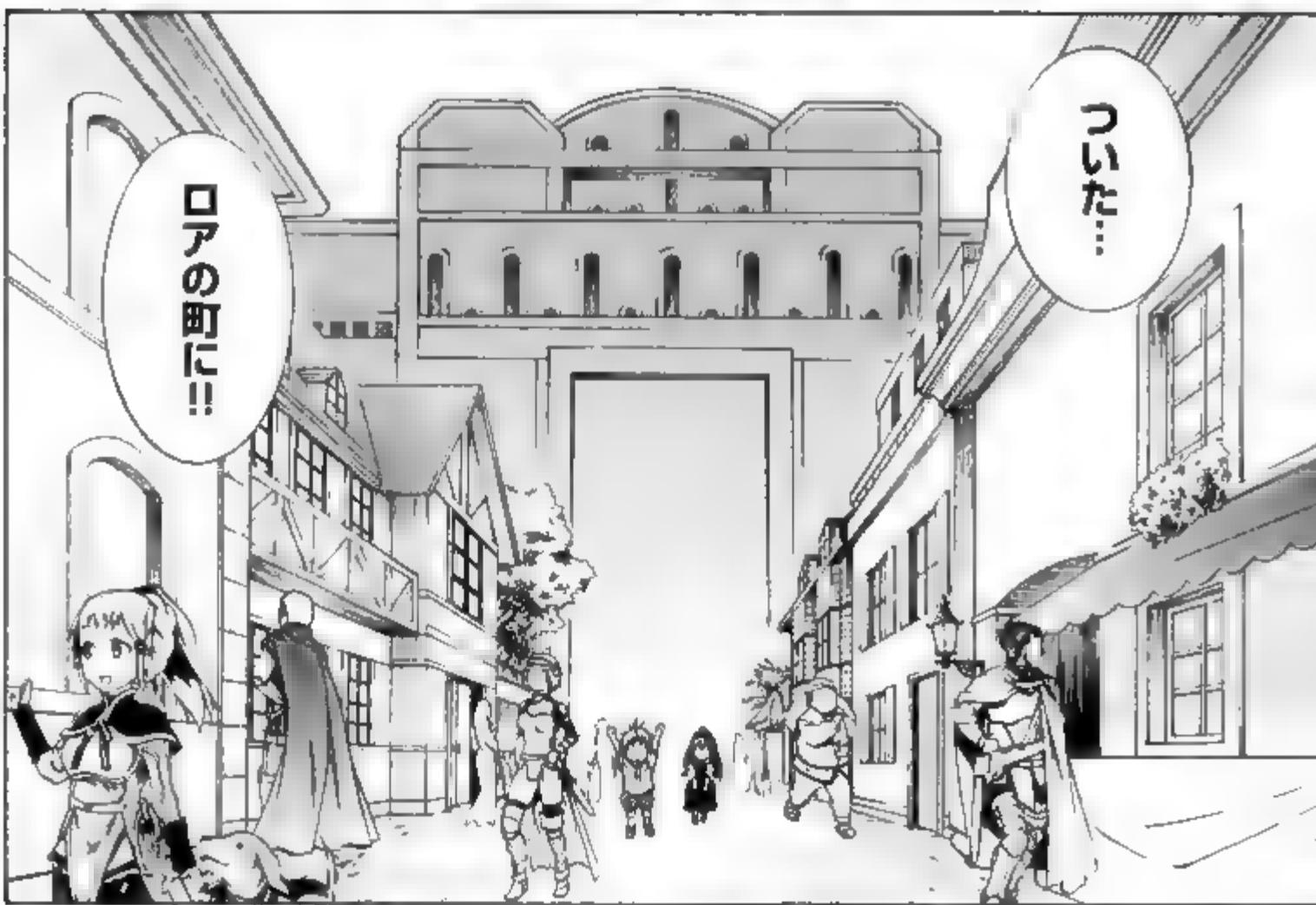


あらあ…  
これは…

お嬢様籠絡作戦  
順調かしらあ…?













しまつた  
油断した

あいつらの  
仕業か…!?



見つけた!!!











アーティストは

買えない  
ですよ!!!



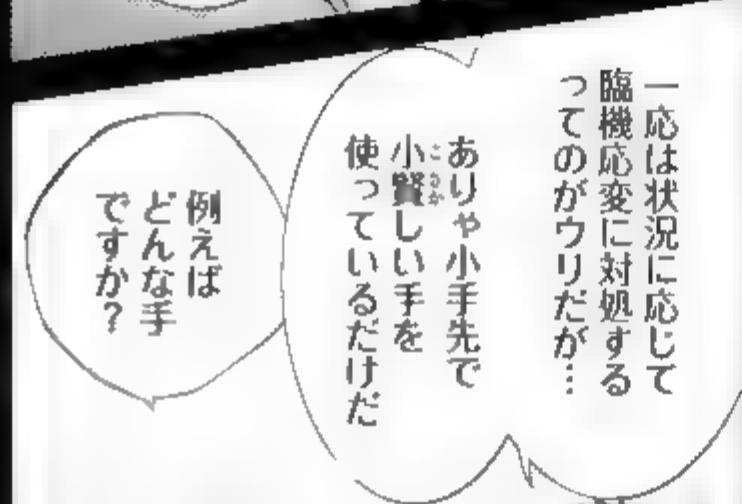












剣を投げて  
突き刺すとか  
だな

足を斬られたときに

避けられない

死







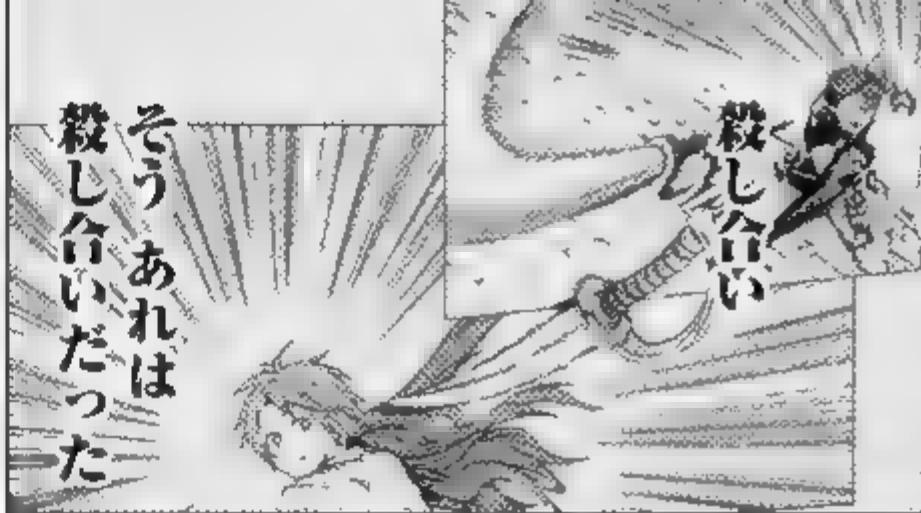
敵はふたりだけか?  
ルードゥス





そういうえば  
お嬢様の名前  
知らなかつた





俺は

どうなつてしまふのだろう……

# 無限重生

異世界行ったら  
本気だす

第9話

ボレアス流挨拶





# ルードウス!!! 聞いたぞ!!!

ところで  
フイリップ  
おいたんは  
なぜこんなに  
ボロボロに…?

それで…  
エリスの  
家庭教師の  
件だけど

エリスを助けて  
くれたらしいなー  
よくやつた!!

本当に  
感謝いたします  
ルードウス様

フイリップ様に  
当たりちらされ…

お嬢様が誘拐されたと  
知ったサウロス様の  
荒れようは  
それはそれは  
すさまじく…

ああだから  
フイリップおいたん  
ボロボロなのね



今まま受けても  
まともな授業にすら  
ならないだろうし  
誰のためにもならない

まずは  
この甘やかしを  
やめさせ  
なければ！

それは  
サウロス様  
ではなく

エリス本人が  
僕に言うべき  
ことです!!

エリスを  
そんな大人に  
育てるおつもり  
なんですか？

たつ頼みごとが  
したいけど  
頭を下げるのは  
イヤ……

なんだ？

エリイイイイス!!



ほう!  
言うでは  
ないか!!



今すぐ応接間に  
来なきをああい!!!



はあ  
い!!!









エリスに魔術を  
教えてください  
ニヤン☆

ハキュー

え

さ  
や

ハ  
キ





# 怒り8 屈辱2

せんせん可愛くなんて  
ないですか?

目が完全に  
捕食者の  
目ですよああ

ちょっとちょっと  
サウロスさん！  
これはものを  
頼む態度じや  
ないでしょ！

なんとか  
ほってやって  
くださいよー

照れ0







バウロが一番  
まともだわ

クレイアット家が  
とくに好きものの家系  
なのかもしかんが…



いやしかし

感心したぞ  
ルーデウス

あのサウロス様に  
言い返したうえに  
ボレアス流の捜索を  
廃止させるとは

…あの頼みかたは  
ダメでしよう

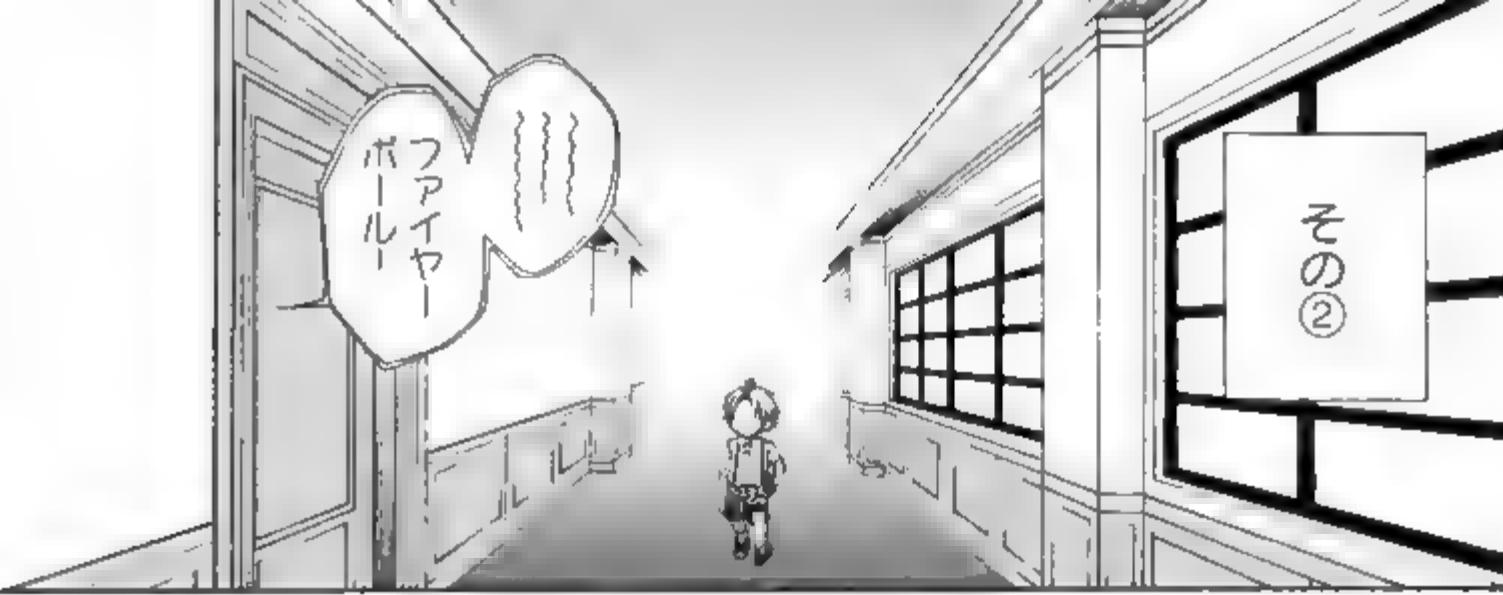
エリスだつて  
嫌がつてましたし

怒り度マックスの  
エリスにボコボコに  
されてただろうし…

よし それでは

そろそろ  
始めるか





その②











シルフィイとはまた  
勝手が違う…

俺の教えかたにも  
問題があるのかも  
しれない

授業の準備を  
念入りに  
しておこう

ルードゥス！  
こう？  
これでいいの？

師匠も俺の  
家庭教師のとき  
遅くまで  
頑張ってたし

うん！  
上出来です  
エリス！

どーんな  
もんよ！

ふふーん

しがじ  
シルフィイに  
師匠があ



ふたりとも会ふる

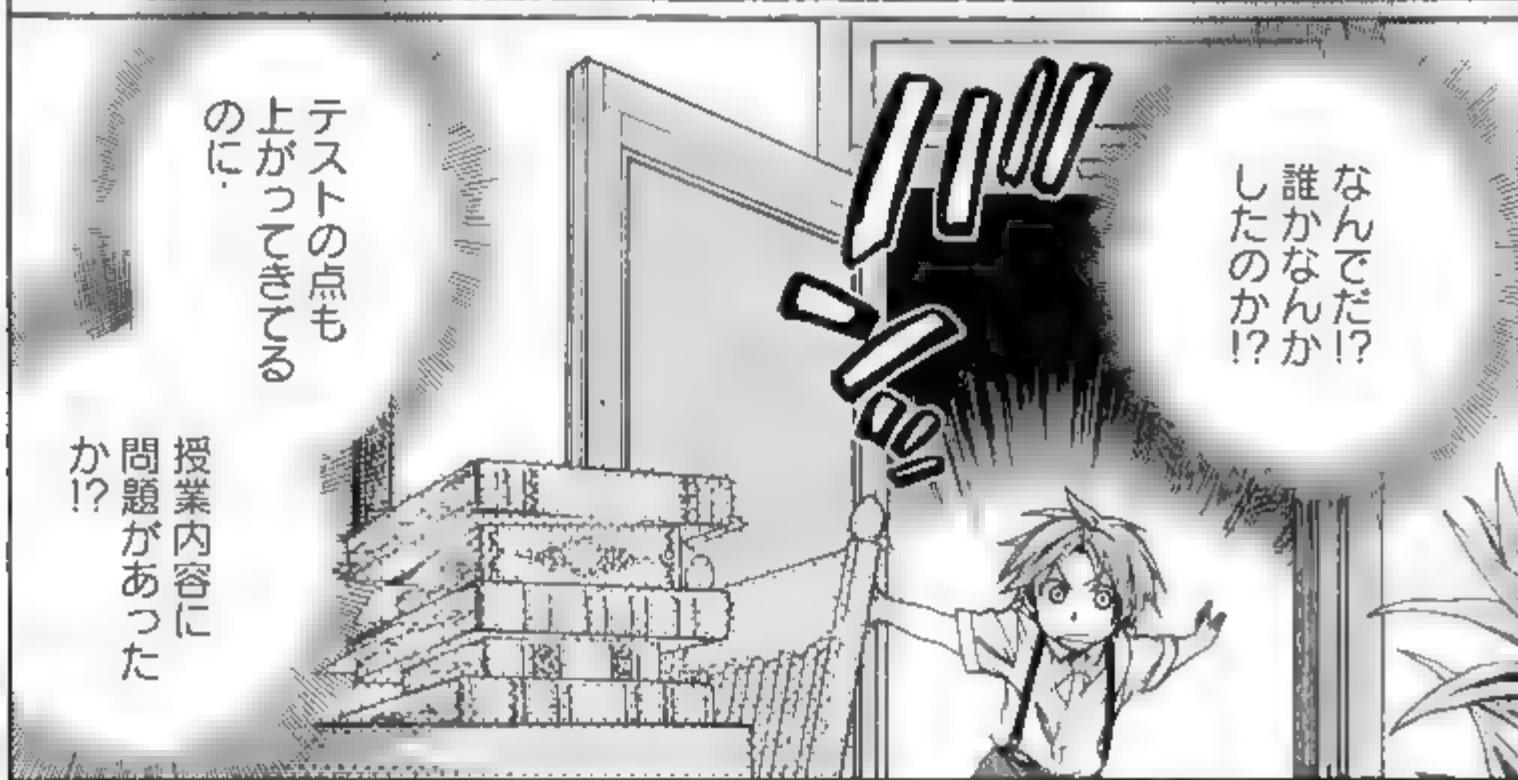


どうしてんだろうな









## 緊急職員会議

いかがでしょ  
うか

とい  
うわけ  
な  
の  
で  
す  
が

!!



第10話

エリスの憂鬱





それに



俺にも休日は  
必要だしね



子供なのに  
自由時間も  
読書したい  
だなんて  
感心するね

ありがとうございます

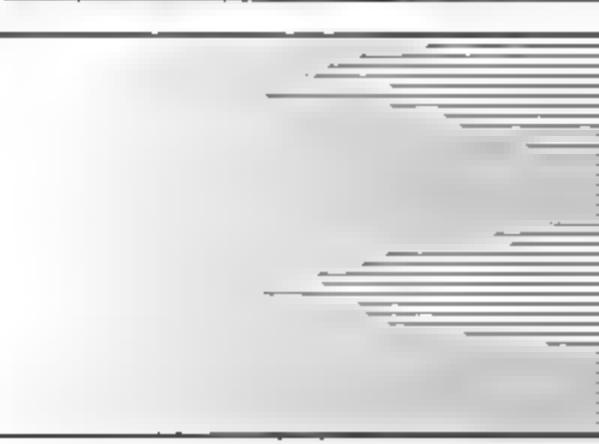
すみません  
フィリップ様に  
書庫まで案内して  
いただい



少しでも師匠に  
追いつけるよう  
努力せねば











どいつも  
こいつも  
上から目線で  
ごちやごちやと…

できねーんだよ！  
俺は!!

人並みに  
生きられる  
やつが

俺の気持ちを  
わかつたふうな口  
きいてんじやねー!!

いや、これは  
言いわけだな…

え？

普通も！  
人並みも!!

できねーから  
ひきこもつてん  
だよ!!

勇気を  
だせ？

もう少し  
頑張れ？

いえ  
そうですね…

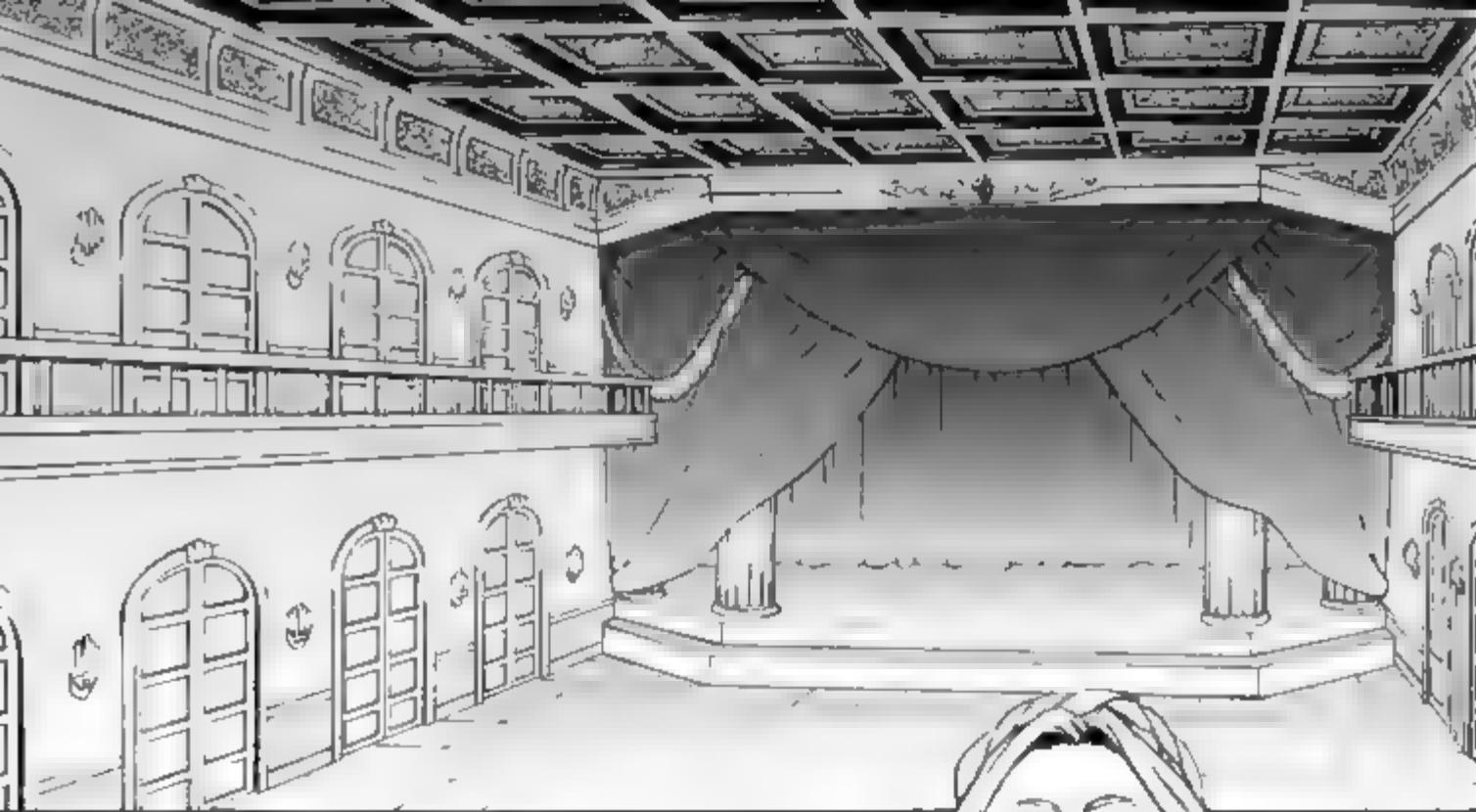
なぜと聞かれると  
難しい問題かも  
しません







ダンスの練習に  
戻るわ















エリス

ひとつつの授業で  
学んだことは  
ほかの授業でも  
応用できます

うまくできない  
ときはほかの授業も  
よく思い出して  
ください



まあ…さすが  
ルーデウス様

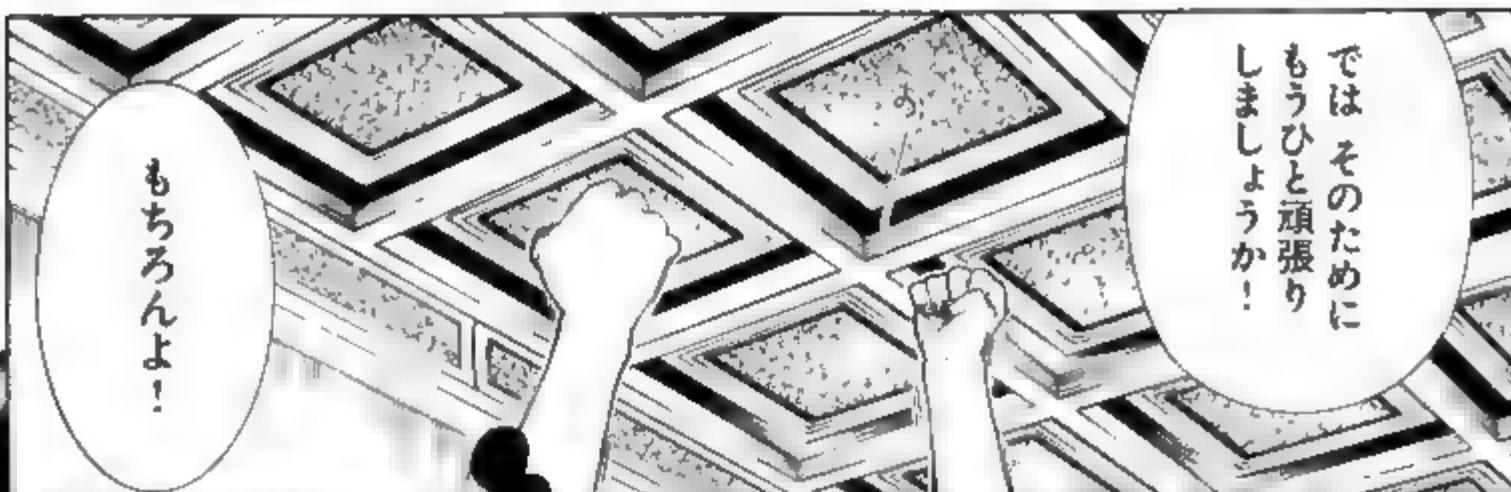
このエドナ  
目から鱗が落ちる  
思いです

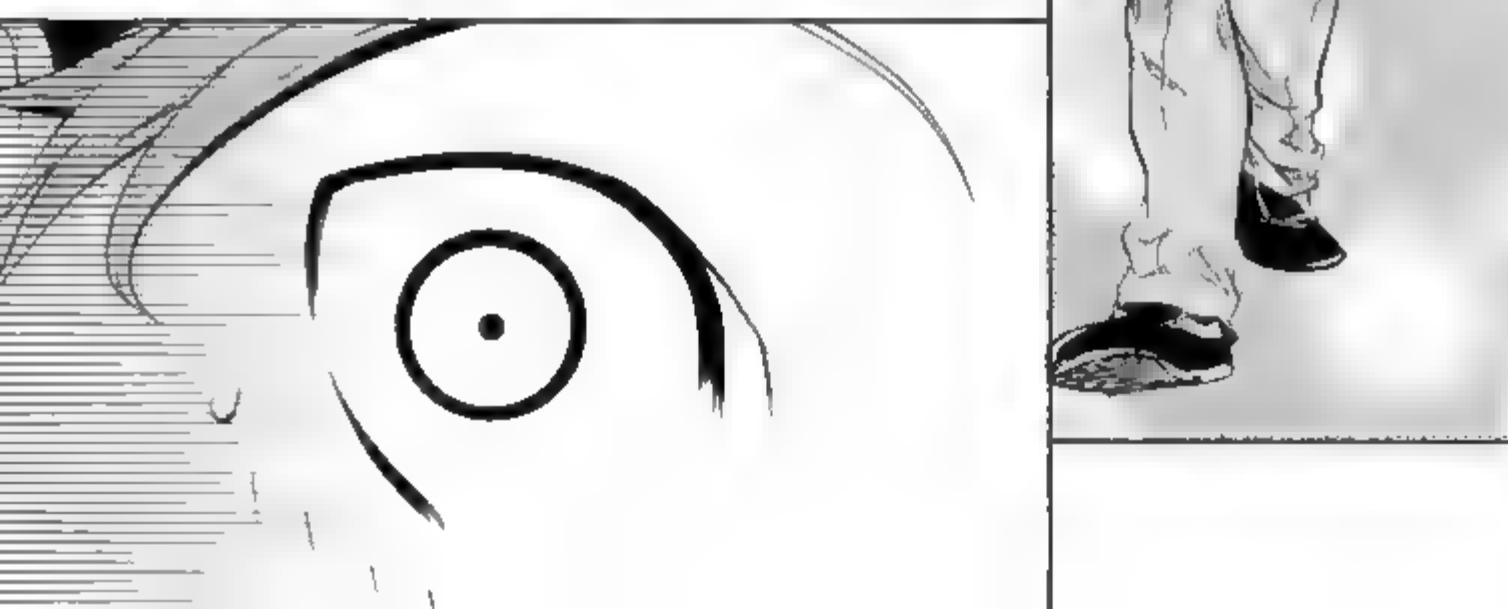
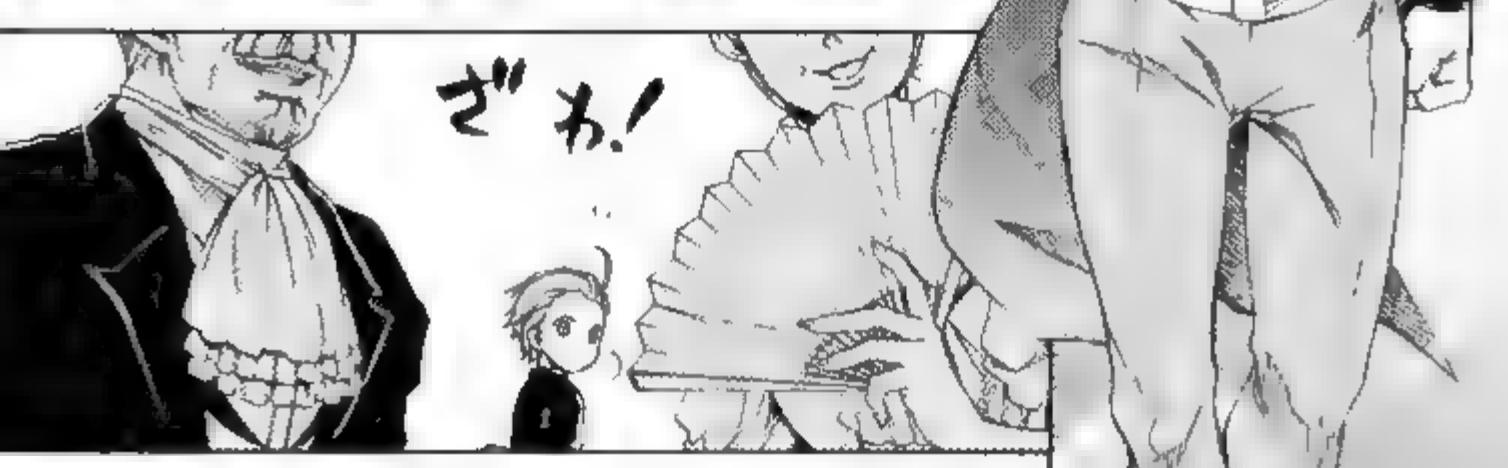
剣術と  
ダンスには  
通じるもののが  
あるのですね

まあ剣を使つた  
踊りもあるくらい  
ですかね











エリス10歳の  
誕生日パーティーが  
開催された

*To be continued Vol.3.*

# 無限先生

異世界行ったら  
本気だす



# 狂犬王、飼い犬となる

著：理不尽な孫の手

死ぬ。

あたしはそう悟った。

腹が減った。  
まともな飯は、もう何日も口にしていない。豪腕を誇った腕には力が入らず、俊足でならした足はガクガクと震え、立つこともままならない。

なにもかもが空腹のせいだ。

腹の中はなにも入っていない。昨日、道端で捕まえた虫を食つたのが最後だ。

そして、その虫を食つた日の夜中、猛烈な胃痛に見舞われた。激痛の中、何度も何度も吐いた。

夜中に一睡もできず、食べたものをすべて吐き出し、尻のほうからも排泄して、ようやく胃痛は収まった。間違いなく、あの虫が原因だろう。

虫が原因で、今、あたしは無様にも仰向けに倒れ、空を見上げている。

落ちきつた体力に加え、一晩中胃痛と戦った体には、すでに立ち上がる力すら残されていなかつたのだ。

「ここで終わりか……」

少し歩けば街道に出られるが、そんな力は残っていない。よしんば力が残っていたとしても、金も力も残されていないあたしを、誰が助けるものか。

あたしは死ぬ。ここで死ぬ。ギレーヌ・デドルディアは、ここで餓死するのだ。

剣王ともあろう者が、戦いの中で死ぬのではなく、無様に餓死するのだ。それも、あんなちっぽけな虫を食つたのが原因で。

そう悟ると、今までのことが走馬灯のようによみがえってきた。

思い出すのは、パウロたちとのパーティを解散した日からのことだ。

あの日は誰もが不機嫌で、誰もが別れを望んでいた。

あたしも例外なく別れたいと思っていたが、別れたあと、古い知れぬ寂しさが胸の内を占め、

カ月はその憂鬱な気分に顔をしかめていたのを憶えている。

解散後、あたしは中央大陸を転々とした。今までどおり、迷宮探索を続けていた時期もあったが、ひとりでは食料やアイテムの管理がどうしてもできなかつた。ほかのバーで入るつもりはなかつた。他者とうまくやっていけるのは、なにより自分がよく知つていた。

それに、あの別れのような気分を味わうのは嫌だつた。

その気分を払拭するように、あたしはアスラ王国へと移動した。

アスラ王国は、とても豊かな国だと聞いていたから、あたしのような奴でも、なんとか仕事にありつけるかもしれない、と思つていた。

浅はかだつた。

アスラ王国は、冒険者——特に上位ランクの冒険者にとつて生きにくい場所だつた。

首都アルスには、あたしが受けられる依頼はほとんどなかつた。

戦うことしか能のないあたしは討伐依頼を探したが、せいぜいあつてもCランクで、Sランクのあたしが受けることはできなかつた。そのくせ、アスラ王国の物価は高く、宿屋に泊まつてはいるだけでも、パーティを組んでいたころに少し溜め込んでいた金がすぐになくなつた。

依頼がないなら、自分で魔物を倒し、その収集品を売つて生活すればいい。

そう考えたものの、首都近辺に魔物の姿はなかつた。普段から騎士團が狩り尽くしているらしいと聞いたのは、完全に金がなくなつたあとのことだ。

宿を追い出されたあたしは、町中をさまよつた。

残飯を漁りながら、野良犬のように生きた。盗みや殺人は、剣神様に「人の社会で行きたければ、人のルールを守れ」と強く教わっていたため、決してやらなかつた。

そんな中、ある噂を聞いた。

「北東にあるフィットア領の城塞都市ロアでは獸

族が優遇されている。仕事にあぶれた獣族が行けば、なにかしらの仕事がもらえる」

あたしはそれにすがりつくように、移動を開始した。

ロクなものを食つていなかつたせいで体は重かつた。旅に耐えられるような状態ではなかつた。

だが、それでも北東を目指した。

食えそうなものがあれば、草でも虫でも全部食つた。小川を見つければ、吐きそうになるまで水を飲んだ。森の中に入り、動物や森の恵みを狩ろうと考えたこともあつたが、アスラ王国では認可を持つ狩人以外は獲物を狩つてはいけないという決まりがあつたのを思い出し、断念した。

そうして、フィットア領に入り、城塞都市ロアまであと一歩。

というところで、力尽きた。

「最後に食つたのが、苦虫とは、笑えんな……」

思い出すのは、昨日食つた虫だ。

いつもなら、毒虫や毒草は臭いで喰き分けられるのだが、空腹のあまり鼻も利かなくなつてい

るらしい。

あるいは、毒でもなんでもなかつたか。消化する体力すら残されていなかつたため、吐き出すはかなかつたのかもしれない。

なんにせよ、なにも食えず、体も動かない。

終わりだ。

「こんなところで死ぬとは、想像もしていなかつたな……」

少なくとも、剣の聖地で共に修行した者たちや、剣神様は、あたしがここで野垂れ死ぬとは思つていなかつただろう。

あたし自身も、死ぬときは戦いに敗れて死ぬのだと思っていた。

あるいは、大森林の連中は、あたしがこういう死にかたをすると予想していたかもしない。あたしの連中は、ことあるごとにあたしの死を望んでいたし……いや、それは予想ではなく願望か。

ああ、そうだ。ひとり、こういう死にかたをすると予言していたやつがいたな。

『ギレース。お前さんは、俺らと別れたあと、仕

事が見つけられず、あちこちうろついてるあいだに餓死しそうだな』

ギース。パーティーでシーフ役を務めていたあの男は、確かにそう言っていた。

まさに、その通りになつた。

あの男はたまに未来予知でもしているかのよう、的確に物ごとを言い当てる。

ほかには、なんと言つていたか……そう、確か……。

『お前さんは剣の腕は確かなんだ。人づきあいを怖がらず、誰かを手伝つたり、誰かに剣でも教えてやりやあ、食いつなげるだろうさ』

そうか。そうだ、そうすればよかつた。

当時は剣なんて教えられないと思ったが、パウロに教えたようにやれば、あるいは弟子のひとりも育てられるかもしねれない。

「ハツ」

こんなアドバイスを今更になつて思い出すとは……相変わらず、あたしは頭が悪いな。

これでは、パウロに馬鹿にされても言い返せない。

い。

『パウロ、か』

そういうえば、あの男はどうなつたろうか。ゼニスとの子供は、無事生まれただろうか。

アスラ王国に移動するとは聞いたが、そのあとについてはなにも聞いていない。

少し心配だつたが……。

「ふつ」

心配という言葉に、小さな笑いが漏れた。

パウロはなんだかんだで要領のいいやつだった。パーティーの解散のとき、最後の最後で失敗したが、普段は大きな失敗とは無縁で、小さな失敗はしばしばやらかしたが、最終的にはうまく収めている、そんな感じの男だったから、今はきっとうまいことやつているだろう。

そんなのを、死にかけている愚かなあたしが心配するなど、おこがましいにもほどがある。

「…………」

あたしは本当に、愚かだ。

もつと違う道もあつたろうに、もつと違う方法

も逃げたろうに……。

「あたしは、こんなにも生きる力がなかつたんだな……」

生まれ変わつたら、今度はもう少し勤勉にならう。

馬鹿だからと開き直らず、覚えられるまで頭を捻らう。

「……つまらん人生だつた」

ぱつりと眩<sup>まぶ</sup>き、あたしは目を閉じた。

せめて眠りの中で死にたい。

そこで、ふと、あたしの顔に影が差した。

★ ★ ★

普段は家の中に閉じ込められ、たまの外出でもせいぜい町中にしか行けないエリスにとって、草原の中の川というの、今までに体験したことがないほど開放的で、素晴らしいだった。

「また連れてきて！」

「おお、もちろんだとも」

サウロスはにこやかに笑いながらうなずきつつ、

サウロスは厳しい人物だったが、孫娘には甘か

つた。

その日も、「町の外を見てみたい！」というエリスの願いに応え、忙しい仕事の合間を見つけて、エリスを遊びに連れていったのだ。

「エリスや、楽しかったかい？」

サウロスは帰りの馬車の中、満足気な表情を浮かべるエリスにそう聞いた。

「とつとつても楽しかったわ」と

エリスは当然のようにそう答えた。

見渡すかぎりの草原の中、冷たい水の中で魚を追いかけたり、岩から飛び込んだり、泳いだり……。

その日、エリス・ボレアス・グレイラットは川遊びに出かけていた。

祖父のサウロスと一緒に。

確かに、エリスはまだ海を見たことがなかつたは

ずだ。川遊びの途中でも「海は川と違つて塩辛くて広くて深いのよね?」とお付きのメイドに聞いていた。

川であれだけ大喜びしていたのだから、海を見れば飛び上がって喜ぶだろう。

「今度は海に——」

「馬車を止めて!」

言いかけたサウロスの言葉を遮るように、エリスの叫びが馬車内に響いた。

御者台の従者は小窓からサウロスの様子を伺う。

サウロスは即座にうなずいて、馬車を止めさせた。

「エリスや、なにを——」

「待つて!」

馬車が止まると同時に、エリスは外へと飛び出した。

サウロスは護衛に顎で追いかけるように指示し、自らもまた馬車から降りた。

「……」

幸い、エリスはさほど遠くには行つていなかつた。

馬車から十メートルほど離れた草むらで、護衛と一緒に下を覗きこんでいた。どうやらなにかを見つけたらしい。

「おじいさま!」

サウロスは大股おおまたでエリスの場所へと急いだ。

そして、エリスが見つけたものを見下ろした。

「行き倒れか!」

そこには、ひとりの女獣族が口をつぶつて仰向けに倒れていた。

身なりを見るに、おそらく冒険者だろう。だが、その頬はやつれ、今にも死相が浮かんで見える。

「おじいさま! 獣族よ!」

「ほう、珍しいな! ドルディア族だ! 耳と尻尾を見るに、ドルディアか!」

アスラ王国でドルディアを見ることはほとんどない。まして純血のドルディアなど、獣族の王の血筋だ、大森林から出でることなどめった

はない。

それが、こんなところで行き倒れていようとは……。

「む……」

そこで倒れていた女が、うるさそうに耳をピクつかせながら、うつすらと目を開いた。まだ息があつたらしい。

即座にエリスがしゃがみ込んだ。

「ねえ、こんなところでなにをしているの？」

「…………これから、死ぬところだ」

女冒険者はエリスを無遠慮に見つつ、かすれた声で答えた。

「そう！ でもあなたの耳と尻尾、とつても綺麗よ！ 死ぬなんてもつたいないわ！」

「…………もつたいなくとも、あたしには、もう生きる力がない。放つておけ」

女冒険者——ギレースはそう言った。

まだ生きていたいと思いつつも、気力も体力も残つていなかつた。助けてほしいという言葉は、なぜか出てこなかつた。

ギレースは、すでに死を受け入れていた。ここで野垂れ死ぬのが運命だと。

もつとも、そんなこと、エリスにとつてはどうでもよかつた。

「じゃあ！ 私が創つてもいいわね！」

エリスのはつらつとした声が草原に響き渡つた。

「ねえ、おじいさま、いいでしょ？」

「構わん！」

サウロスは即座に答えた。デドルディアが我が家に來るのであれば、断る理由などなかつたからだ。無論、ギレースが良からぬ考えを持つ者である可能性は、考へていない。

「……」

ギレースはポカンとした目でエリスとサウロスを見た。

なにが「じゃあ」なのか、なにが「構わん」なのか、まつたく話が通じていないことに、困惑していた。

「フツ」

だが、大昔の自分もこんな感じだつたのか、と

思い出し、自然と笑いが漏れた。

「あたしを剣うなら、あたしはお前に剣を教えてやろう」

昔のパーティメンバーの言葉を思い出し、そう言った。

「本当?」

するとエリスは嬉しそうに顔をほころばせた。  
以前から剣を習つてみたいと思っていたのだ。

「約束よ!」

こうして、ギレースの運命は決まつた。

その場でお昼のお弁当の残りが与えられ、ギ  
レースの命は救われた。

ギレースは生き長らえたことに感謝し、エリス  
に忠誠を誓つたのだった。

しかし、このときは誰も知らなかつた。

ギレースが『剣士』であることを。

そして、ギレースを師としたエリスがめきめき  
と剣の腕を上げていくことを…。

コミックス2巻発売です!!  
フジカ先生の描く可憐なエリスの暴力を!!  
それにあげない健気なルーディスのセクハラを!!  
どうぞお楽しみください。  
理不尽な3姉のラ



# 無限先生

異世界行ったら  
本気だす





私はリーリヤ

グレイラット家の  
メイドである

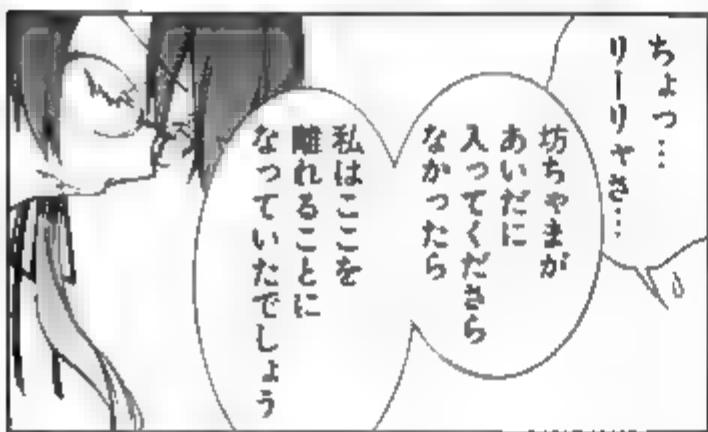
side  
story

グレイラット家のメイドさん















この子を坊ちやまに



いや  
…  
ルーデウス様に  
仕えさせよう



し失礼  
しました…



坊ちやま

お茶のおかわりは  
いかがですか?



家族である

そして

いただ  
きま  
す!